讀賣新聞
ワークシート通信
2024年 1月 17日
★★
仲良く温まる

年　　組（　　）名前

サイン

読売新聞 教育ネットワーク
YOMIURI EDUCATION NETWORK

◆神戸市の動物園で寒さが苦手な、アフリカのサルが電気ストーブで体を温めています。

（2023年12月23日　読売新聞大阪夕刊より）

# 去りがたき寒さ

寒波の影響で全国的に冷え込みが厳しくなる中、神戸市中央区のポートアイランドにある「神戸どうぶつ王国」では、電気ストーブの前で仲良く暖をとるワオキツネザルの姿が来園者の目を楽しませている＝写真、前田尚紀撮影＝。

アフリカ・マダガスカル島に生息するワオキツネザルは寒さが大の苦手。気温が低くなると、白黒しま模様の長い尾を体に巻き付けたり、日光浴をしたりして体を温める。

どうぶつ王国では、15度以下になると、ワオキツネザルのためにストーブをつけている。飼育されているサルは、ストーブの前に集まり、肩を寄せ合うようにして寒さをしのいでいる。

※先生やおうちの人といっしょに読みましょう。

【1】写真はなんというサルですか。カタカナ7字で書きましょう。

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |

【2】サルたちはどのような話をしていると思いますか。ふきだし（写真の白い四角形）に書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun

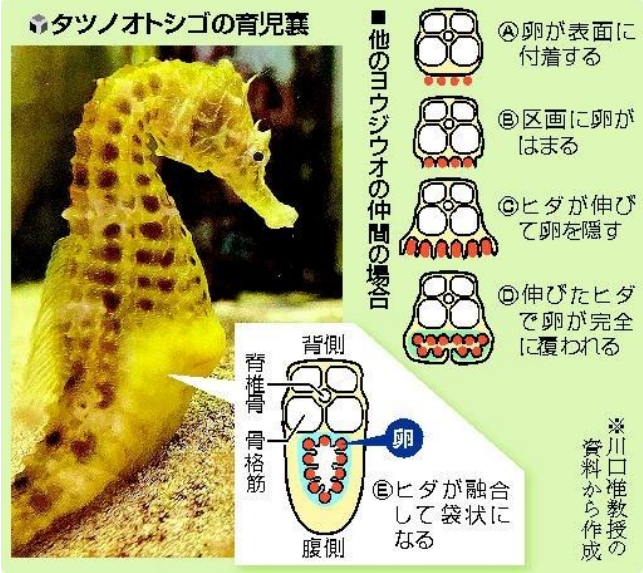
讀賣新聞
ワークシート通信
2024年 1月 17日
★★★
オスの「出産」に特有遺伝子

年　　組（　　）名前

サイン

読売新聞 教育ネットワーク
YOMIURI EDUCATION NETWORK

# オスの「出産」に特有遺伝子




## タツノオトシゴ

「辰」にちなんだ身近な生き物といえば、タツノオトシゴだろう。長崎県から東京湾にかけて生息する日本の固有種の魚で、オスが〝出産〟するユニークな生態が知られている。

国内で数少ないタツノオトシゴ研究者の上智大・川口真理准教授によると、タツノオトシゴは「ヨウジウオ」と呼ばれる魚の一種という。

ヨウジウオ科の魚は、卵を守るオスが、育児嚢と呼ばれる器官を持つ。魚の種類によって体の表面に卵を付着させるタイプや、卵がすっぽりはまる区画のようなものを持つタイプなど、大きくわけて5種類の育児嚢がある。

このうちタツノオトシゴの育児嚢は、カンガルーの袋のようになっている。メスがオスの袋に卵を産み、その後、子どもは袋の中で孵化して大きくなる。タツノオトシゴの仲間は全世界で46種類が確認されており、いずれもこの袋を持っている。川口さんによると、育児嚢についてはまだわかっていないことも多く、卵を保護するだけでなく、子どもに栄養を補給する働きがあることも報告されているという。

## 育児嚢 卵保護や子に栄養補給

「魚は3億年以上前から生息しているけれど、ヨウジウオ科は約7200万年前に枝分かれした『新しい魚』と言ってもいい」と川口さん。育児嚢のタイプの違いは、「わずかな遺伝子の違いによって決まるのかもしれない」と推察する。

その違いをもたらす遺伝子を突き止める研究が進んでいる。昨年7月には、川口さんや東京農大、東京大のチームがタツノオトシゴの仲間の育児嚢などにある細胞に、特有の遺伝子が発現していることを発表した。この遺伝子が育児嚢の形成に関係している可能性があるという。

ちなみに、日本近海で生息が確認されているタツノオトシゴの仲間には、「ハナタツ」「イバラタツ」「サンゴタツ」など「辰」が付くものが多いが、「クロウミウマ」「オオウミウマ」など「馬」が付くものもいる。それもそのはずで、タツノオトシゴの英語の名前は「シーホース」で、海外では「馬」として認識されているという。

ちょこんとした口や少しずんぐりとした胴体がかわいらしい姿のタツノオトシゴ。水族館に足を運んで、その不思議な生態に触れてみてはどうだろう。

◆今年は辰年。「タツノオトシゴ」という魚のユニークな生態を解明する研究が進められています。

（2024年1月 4日　読売新聞夕刊より）

【1】子どもを育てるための袋「育児嚢」は、オスとメスのどちらにありますか。また、どのような働きがあると報告されているか、記事を読んで書きましょう。

【2】記事で書かれている他にどのような仲間がいるか、調べましょう。

©The Yomiuri Shimbun

讀賣新聞
ワークシート通信
2024年 1月 17日
★★★★
全員脱出「奇跡的」
読売新聞 教育ネットワーク
YOMIURI EDUCATION NETWORK

年　　組（　　）名前

サイン

# 全員脱出「奇跡的」

◆炎に包まれた日本航空の旅客機から、乗員乗客379人が脱出できました。海外メディアは「奇跡的だ」と報じています。

## 羽田衝突

## 着陸後18分 称賛次々

### 海外メディア

炎が上がった旅客機から乗員乗客379人が生還した――。東京・羽田空港で2日、日本航空と海上保安庁の航空機が衝突・炎上した事故は、着陸後18分で、全員が脱出した。海外メディアからは、「奇跡的だ」と驚きと称賛の声が上がった。

家族連れや旅行客を乗せた新千歳（北海道）発羽田行き日本航空516便が、C滑走路に降り立ったのは、2日午後5時47分頃だった。

「ドン」。タイヤが滑走路に着いた直後、乗客らは、下から突き上げるような揺れと衝撃におののいた。

機内左後方の座席にいた東京都瑞穂町の会社員、沢田翼さん(28)は、直後に翼の脇から火が出ていることに気づいた。煙が機内に入ってきて、炎の熱さもじわりと感じた。

別の乗客によると、着陸後1分もたたずに煙が漂い始め、撮影された映像では、同51分の段階ですでに機内に煙が充満していた。

「落ち着いてください」「鼻と口を押さえて、低い姿勢になってください」。客室乗務員が呼びかけると、多くの乗客は煙を吸わないように身をかがめた。

混乱した乗客からは、「早く出せ」「（出口を）開ければいいじゃないですか」と怒声も上がった。

■

その後、最前列の2か所と最後尾左側の非常口が開いて脱出が始まり、乗客は押し合うように脱出用シューターに向かった。客室乗務員は、「順番に脱出してください」と冷静な対応を求めていたという。

中央付近の座席にいた男性客は着陸から10分ほど、後方にいた男性客は15分ほどで無事に脱出できた。

日航によると、機長らは逃げ遅れがないか1列ごとに確認し、とどまっていた乗客には前方への退避を促した。後方の非常口の開放は、乗務員が機転を利かせて行ったという。

乗客の脱出が完了し、機長らが最後に滑走路に降り立ったのは、着陸から18分後の午後6時5分だった。それから約10分後、機体は大きな爆発音とともに激しい炎に包まれた。

■

日航によると、緊急時の脱出訓練は年に1回、全乗務員を対象に行われている。丸1日かけ、非常用ドアの操作などを確認するという。

航空評論家の青木謙知氏は、全員の脱出について「各乗務員が炎の状況を見極め、適切な非常口を選んで乗客を誘導したのだろう。乗客もパニックに陥らず、指示通り動いたことが今回の結果につながった」と話した。

海外メディアは今回の脱出劇について、「奇跡的だ」などと相次いで報じた。

英BBCは、「いかに乗員が訓練されていたかが分かる。彼らは驚くべき仕事をした」とする航空事故調査専門家の見方を伝えた。

英スカイニュースの取材に応じた元旅客機パイロットも「我々はいま奇跡を目撃した」と語った。

（2024年1月4日　読売新聞朝刊より）

衝突事故のイメージ　※国交省の資料から

※答えは裏に書きましょう。

【1】今回の事故で乗員乗客全員が無事に脱出できたのは、乗務員がどのような対応をし、乗客がどう脱出したからですか。記事を読んでまとめましょう。

【2】飛行機事故に遭遇した場合に備え、機体の非常口の位置や避難の仕方を調べましょう。

©The Yomiuri Shimbun

年　　組（　　）　名前

サイン

◆高知発の「もぐもぐチャレンジ」という取り組みが全国に広がっています。

（2023年12月25日　読売新聞高知版より）

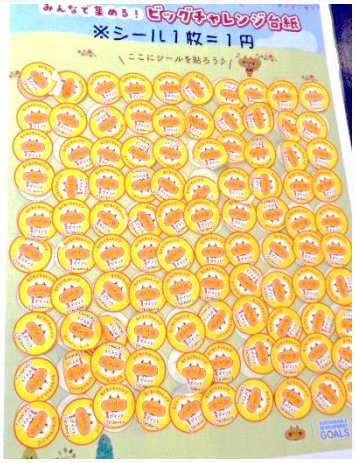
# 食品ロス削減 進む県内

## スーパー・企業

## 「もぐもぐチャレンジ」全国に

本来はまだ食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」を削減する取り組みが県内で進んでいる。スーパーで賞味・消費期限が近づいた商品に貼られたシールを集めると景品がもらえるなどの取り組み「もぐもぐチャレンジ」は、高知から全国に参加店が広がる。自治体なども家庭で使い切れない食品などを持ち込んでもらう「フードドライブ」を企画し、子ども食堂などへの支援を進めている。

▲ クリスマス会を楽しむ子どもたち。こども食堂の運営には寄付金が生かされている（高知市で）




もぐもぐチャレンジで集められたシール

農林水産省の調査では、2021年度の食品ロス量は523万トン（前年度比1万トン増）。SDGsの目標の中で「30年までに、世界の食料廃棄物を小売りおよび消費者レベルで半減し、食品生産および供給チェーンの食品損失を減らす」と示している。

「もぐもぐチャレンジ」は、スーパーで賞味期限が迫った商品に貼付されたシールを専用の台紙に貼って集めると、景品と交換してもらえる。シール1枚につき1ポイント（円）と換算して、子ども食堂などに寄付することもできる。

◇

高知市は、食品などの寄付を受け付ける「フードドライブ」を今月1日までの約10日間、市役所や関連施設などで実施した。米やカップ麺、飲料など計約300キロ分が集まった。

子ども食堂や生活困窮者を支援し、食品ロス削減にもつながるとして昨年から取り組んでおり、今後も続けていく考えだ。

【1】「もぐもぐチャレンジ」はどのようなことを目指す取り組みですか。その仕組みも説明しましょう。

【2】「もぐもぐチャレンジ」を参考に、消費者が賞味・消費期限が迫（せま）った商品を思わず買いたくなるようなアイデアを考え、書きましょう。

©The Yomiuri Shimbun



読売新聞社は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

年　　組（　　）　名前　　サイン

# Mizuki Shigeru Road attracts over 1.5 mil. visitors in 2023

SAKAIMINATO, Tottori -- More than 1.5 million people visited the Mizuki Shigeru Road in Sakaiminato, Tottori Prefecture, in 2023, about half a million more than in 2022.

The sightseeing spot, named after mangaka Shigeru Mizuki, features statues of characters from his comic series "GeGeGe no Kitaro," which depicts Japanese yokai monsters. In 2023, the road brought in more visitors every month than the same month in the previous year, when about 1.01 million people visited the area. July saw 2.2 times as many visitors and December saw 1.5 times as many, according to the Sakaiminato city government.

The resumption of flights connecting Yonago Airport in the prefecture and Incheon Airport near Seoul in late October as well as the release of the new Kitaro movie likely contributed to the increase. The road marked its 30th anniversary in 2023.

"We want to keep the road as a place that draws in many people and families," said an official in charge of the city's tourism promotion division.

◆「ゲゲゲの鬼太郎」で知られる漫画家・水木しげるにちなんで名づけられたロードを訪れる人が、4年ぶりに150万人を突破しました。

（2024年1月1日　THE JAPAN NEWSより）

The Mizuki Shigeru Road in Sakaiminato, Tottori Prefecture

【1】「水木しげるロード」は、いつ、どこに作られたのか、数字と英語で書きましょう。

| |
|---|
| いつ： |
| どこに： |

【2】観光客が150万人を突破した要因を日本語で説明しましょう。

| |
|---|
| |

attract：引きつける、1.5 million：150万、visitors：観光客、sightseeing spot：観光地、named after ～：～にちなんで名づけられている、statue：像、depict：描く、previous year：前年、resumption：再開、Incheon Airport：仁川（インチョン）空港、release of ～：～の公開、contributed to ～：～に貢献する、increase：増加、30th anniversary：30周年、draw in：引き寄せる、in charge of ～：～を担当する

©The Yomiuri Shimbun

大阪大学シンポジウム・感染症総合教育研究拠点（CiDER）シンポジウム

# パンデミックの“今”と“これから”

## ～私たちは次の感染症にどう備えるか～

参加無料

学生・先生の参加募集中！

**若者にも 大人にも それぞれの「今」がある。**
**だから一緒に「これから」を考えたい。**

私たちの日常にも大きな影響をもたらした新型コロナウイルス感染症。
様々な分野の専門家と一緒に、みなさんの感染症に関する疑問に答え、「今とこれから」を考えます。

## 2024年2月3日（土） 14:00～16:30（開場13:00）

**会場** よみうり大手町ホール（東京）＋オンライン配信　**アクセス** 大手町駅 C3 出口直結 ・東京駅 丸の内北口徒歩10分

### 第1部　講演｜14:15～

**「データシェアリングによる医療課題の解決：新型コロナからの教訓」**

**末松 誠**
（慶應義塾大学 名誉教授、日本医療研究開発機構 初代理事長）

**「パンデミックと社会心理学」**

**三浦 麻子**
（大阪大学大学院人間科学研究科 教授）

### 第2部　パネルディスカッション｜15:15～

**1「私たちは次のパンデミックにどう備えるか？」**
**2「医療崩壊はもうおきない！？」**

■ファシリテーター　大竹 文雄（大阪大学感染症総合教育研究拠点 副拠点長）
■パネリスト　押谷　仁（東北大学大学院医学系研究科 教授）
内田 勝彦（全国保健所長会 会長）
武見 綾子（東京大学先端科学技術研究センター 准教授）
澤田 瞳子（小説家）
忽那 賢志（大阪大学大学院医学系研究科 教授）

大竹 文雄

澤田 瞳子

押谷 仁

武見 綾子

内田 勝彦

忽那 賢志

### 申し込み方法

右記URL、2次元コード、E-mailのいずれかで参加登録をお願いします。

**申し込み期限：2024年1月31日（水）**

会場定員：500人、オンライン：当日の視聴方法はご登録メールアドレスに別途ご案内をさせていただきます。

URL https://www.osaka-u.ac.jp/ja/event/2024/02/10639

**2次元コード**

お申し込みはこちら

**E-mail**

2次元コードでのお申込みができない場合は、下記の３点をinfo@cider.osaka-u.ac.jpまでお知らせください。

1 参加方法〈会場orオンライン〉
2 氏名　3 E-mail アドレス

※個人情報は適切に管理し、本シンポジウムに関する連絡のみに使用いたします。

問い合わせ先 大阪大学感染症総合教育研究拠点（CiDER） E-mail：info@cider.osaka-u.ac.jp ／ TEL：06-6879-4903

主催：大阪大学、感染症総合教育研究拠点（CiDER）　後援：読売新聞社